



のもとたかゆき
野本貴之 議員
(蒼天)

災害時のし尿処理について

野本 し尿の処理計画の検討は。

環境部長 災害時に発生するし尿は1日約160ℓと推計。その日のうちに処理することは不可能。貯留槽にストック、県内外の広域連携処理、星山浄化センターの利用の検討など、対応を考えていく。

野本 衛生面の観点から、他の災害廃棄物と分けて保管することは。

環境部長 適切に保管処理すること、避難者みずから対応することが必要。異臭等のトラブルにならない保管場所の確保が求められる。

野本 テントトイレの備蓄状況は。

危機管理監 全避難所に配備できるように計画的に備蓄する。

野本 学校施設は避難所に指定されているが、し尿の保管場所などは検討されているのか。

庁内の事務処理ミスの対応

野本 事務処理ミスの防止対策や把握、情報共有の取り組みは。

総務部長 全庁的な注意喚起と複

数人による確認作業の徹底など、意識高揚を図る。定期的・全庁的な実態調査や把握はしていない。重大なミスは全庁的に情報共有をし、軽微なミスは各職場内で共有。

野本 伝え忘れによる追加資料の要求なども市民に負担（コスト）がかかる。対応と防止策は。

総務部長 申請者にあらかじめ伝えることを忘れていた場合は、まず謝罪し、再発防止の対応をする。

野本 軽微なミスでも庁内イントラネットなどの活用で、全庁的に情報共有してはどうか。

総務部長 調査事務で職員に負担がかかる。今後の検討にしたい。

その他の質問
・万野公園グラウンドの整備活用

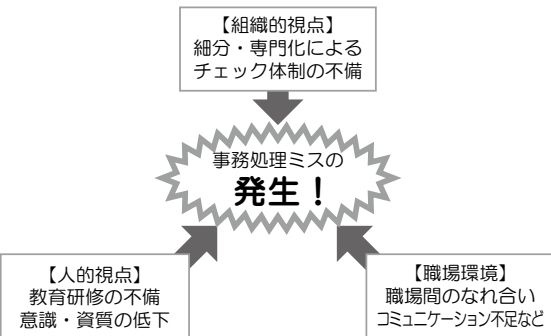


まつながたかお
松永孝男 議員
(富岳会)

静岡デスティネーションキャンペーン（静岡DC）に対する富士宮市の取り組みについて

松永 2019年4月～6月のデスティネーションキャンペーンに静岡県が選ばれた。このキャンペーンは経済効果100億円以上といわれ、JR6社・自治体・観光業者が共同で実施する国内最大級の観光キャンペーンだが、富士宮市のDCに向けての戦略を伺う。

産業振興部長 県全体のテーマを「世界遺産」「歴史」「食」「開運」「花」「アウトドア」「旅館文化」の7つに設定し、進めている。富士宮市の所属する富士地域部会では、テーマを「あなたに知らない富士山」として「神社仏閣」「ダイヤモンド富士」にスポットを当てて商品開発する。具体的には来年のプレDCに向けて、富士山世界遺産センターで館蔵品展を、日月俱樂部、YMCA、まかいの牧場、白糸庵の4カ所で行う。また、富士見学及び朝食プランを実施する。タクシー協会は、まちなかからダイヤモンド富士を見



▲事務処理ミスはヒヤリハットからの対応が重要

て行くツアーを格安で設定し、宿泊客の取り込みも計画している。

松永 2019年の本番DCに向けて、まちぐるみの大規模なウォーキングを提案するが、市長の考えはいかがか。

市長 富士宮市でできる範囲で挑戦したい。行政主導で、民間の協力ももらいながら、30年度に向けてコースを設定したり、いろいろな計画書をつくり、市役所の職員が一丸となって、第一回目を実施したい。

松永 ウォーキング協会の協力ももらいながら、市民のボランティアや高校生・中学生の若い力を結集すれば、開催は可能だと思う。早期の開催をお願いする。

